

平成30年度「チーム 箕輪チャレンジ」政策提言の取組状況

研究テーマ	目指す姿・ありたい姿	政策提言内容	事業化への対応状況	担当課室
<p>若者Uターン促進</p> <p>【振興計画との関連性】 チャレンジ目標②: 将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持</p>	<p>・大学等へ進学した若者が1人でも多くUターンを選択する。</p> <p><目標> ◎大学等への進学に伴う転出者の就職・転職時のUターン数の増加 ⇒若者のUターン: 30人増加 (20～34歳転入者: 327人→359人※2015年基準)</p>	<p>①“みのわ”へ帰ろう！同窓会応援事業 →町内の小中学校を卒業した者を対象とした同窓会の経費を助成 ②保護者のための就活講座 →就活情報や、子どもからの相談を受けた際のアドバイス方法などに関する講座を開催 ③大学等の就職支援担当者のための箕輪町(及び近隣)の企業等との情報交換ツアー →大学の就職支援担当者を町内に招いて採用企業の紹介をするツアーを実施</p>	<p>・政策提言を受け、若者同窓会支援補助金を制度化。 若者同窓会支援補助金(300千円) ・その他提案については、市町村単独でなく、広域的な連携も踏まえて検討する。</p>	<p>みのわの魅力発信室</p>
<p>空き家対策</p> <p>【振興計画との関連性】 第5章: 住みやすい都市基盤をみんなでつくるまち ～空き家の対策・利活用と快適な住宅誘致の推進～</p>	<p>・新たな空き家を発生させない、増やさない</p>	<p><短期的事業> ①未来の自宅見学ツアー →現在家屋を所有している方を対象に、空き家や、リノベーション物件などを見学。専門家と相談できる機会をつくる</p> <p><長期的事業> ①ウェルカムエリアの創設 →災害リスクが低い地域をウェルカムエリアとして、固定資産税の減免などで新築を誘致。同時に災害リスクが高い地域への新築を規制 ②住まいる基金の創設 →新築時から解体費用を積み立て。解体後一定期間の固定資産税を減免。 ③おうちセカンドライフプラン →居住者不在後の土地の処理を制度化</p>	<p>・提言された政策の実施については、引き続き検討が必要なため未実施。提言を踏まえ、空き家発生予防という観点から引き続き検討していく。</p>	<p>みのわの魅力発信室</p>